

さけ ささや 叫びと囁き 福島11年

フォトジャーナリスト 豊田直巳のスライドトーク

東日本大震災発災から11年が経過しようとしている。原発事故による避難指示も徐々に解除されつつある。避難指示解除を受けて故郷に帰還する被災者もいれば、いまだに避難生活を余儀なくされている人もいる。発災直後から福島で取材・撮影し、被災した住民と関わっているフォトジャーナリスト・豊田直巳氏を講師に迎え、福島原発事故の被災者がどのように11年間過ごしてきたのか、現在避難区域はどのようになっているかをお話しいただく。



豊田直巳(フォトジャーナリスト)

1956年静岡県生まれ。
フォトジャーナリスト、ドキュメンタリー映画監督・制作。
JVJA(日本ビジュアルジャーナリスト協会)会員。
1983年よりパレスチナ・中東の取材を始める。その後カンボジア、アチェなど東南アジアや旧ユーゴ、コンボなどの紛争地を取材し、雑誌、新聞、テレビなどで発表。2011年の東日本大震災以降は、主に原発事故被害の取材を続けている。平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞受賞(2003年)。産経児童出版文化賞・大賞(2019年)。『福島に生きる凧ちゃんの10年〜家や学校や村もいっぱい変わったけれど』(農文協2021年)他多数。

2022年

3月4日(金)

定員 100名

会場 日比谷図書文化館

(事前申込順、定員に達し次第締切)

地下1階

18:00~19:30(17:30開場)

参加費 1000円

日比谷コンベンションホール
(大ホール)

関連展示「叫びと囁き 福島11年」

1月18日(火)~3月20日(日) 3階エレベーターホール

今後の新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

【お申込み】

ホームページのお申込みフォーム

電話(03-3502-3340)

いずれかにて

- ①講座名
 - ②お名前(よみがな)
 - ③電話番号
- をご連絡ください。

小学生以下のお子様に参加される場合
保護者の同伴が必要です。

(同伴者の方にも参加費が必要です)

千代田区立日比谷図書文化館

千代田区日比谷公園1-4(日比谷公園内)

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

都営地下鉄●三田線「内幸町駅」

A7出口/徒歩3分

東京メトロ●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」

B2出口/徒歩3分

東京メトロ●千代田線「霞ヶ関駅」

C4出口/徒歩3分

JR「新橋駅」

日比谷口(SL広場)/徒歩10分



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記の対策を実施していますのでご協力ください。

- ・ご入館時には手指の消毒、検温へのご協力をお願いします。
- ・館内では必ずマスクをご着用ください。
- ・会場定員は207名ですが、ソーシャルディスタンス確保のため定員を少なく設定し、募集を行います。